

### ●防災学術連携体の緊急メッセージ

防災減災や災害復興に関わる56の学会ネットワーク「防災学術連携体幹事会」は7月22日、「西日本豪雨・市民への緊急メッセージ」を発表した。同ネットワークは平成28年、巨大地震発生の危機が迫るとともに、温暖化で豪雨災害も続発している折、関係する研究者は専門領域を超えて緊密に連携し対処する必要があると結成。

×  
メッセージの要旨次の通り。

- 1 温暖化により豪雨の発生頻度が高まり規模も大きくなる傾向で、深刻な豪雨災害が毎年起き、平成30年7月豪雨の被害は過去にないほど甚大、広域に広がっている。今夏後半から秋にかけて台風等の大雨への備えが必稟。西日本の被災地は猛暑にも嚴重警戒。
- 2 西日本豪雨のあった地域は水分で脆弱になりやすい地質が分布し、しばらくの間はどこでも土砂崩れ等の危険性が高くなっている。復旧活動にあたる住民もボランティアも、雨の場合は早めに避難。
- 3 あなたには災害の危険性を知る義務と、自分と家族を守る責任がある。ハザードマップと地域防災計画を参考に、どういう災害が起こるか認識し、市町村から「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたら、避難に時間を要する高齢者、障害者とその支援者は避難。
- 4 日本列島にはさまざまな災害が多発する。豪雨災害、地震、台風が重なる複合災害に備え、日ごろから最悪事態にどう行動するか考えておく。